

会員限定

2017年6月度
金融システム研究会
2017年6月27日(火)

技術の変化が 業務を大きく変えようとしている ～ RPA の動向と展望～

講師：山本 英生

株式会社NTTデータ

金融事業推進部 技術戦略推進部 技術戦略企画担当部長

 金財情報システム「金融システム研究会」事務局

CONTENTS

目次

技術の変化が業務を大きく変えようとしている

～ RPA の動向と展望～

Slide2	Agenda	4
1.RPA とは何か		6
Slide 4	RPA とはソフトウェア型のロボット	6
Slide 5	RPA の概念	8
Slide 6	ホワイトカラーへの浸透	8
Slide7	空前の RPA ブーム	10
Slide8	RPA のイメージ	10
Slide9	RPA の隆盛の背景 <海外>	12
Slide10	RPA の隆盛の背景 <国内>—社会的背景	12
Slide11	RPA の隆盛の背景 <国内>—労働リソース	14
Slide12	RPA の隆盛の背景 <国内>—導入しやすさ	14
Slide13	RPA の成長論	16
Slide14	現段階の RPA	16
Slide15	RPA によるシステム化対象外の事務への適用	18
Slide16	投資対効果	18
Slide17	RPA の導入メリットまとめ	20
2.RPA ツールの仕組み		20
Slide19	RPA 活用の盛り上がり	22
Slide20	RPA ツールの基本項目	22
Slide21	RPA ツールと自動化ツールの違い	24
Slide22	RPA ツールの主要機能	24
Slide23	RPA ツールの要素技術	26
Slide24	現在の RPA ツールの発展的要素技術	26
Slide25	RPA ツールにおけるシナリオ作成とチューニング	28

3.RPA ツールの導入事例	28
Slide27 金融機関さまの RPA 導入のご要望	30
Slide28 アンチマネロン業務の顧客情報・取引状況照会	30
Slide29 顧客管理システムから投信窓販システムへの転記	32
Slide30 サンプルチェックから全件チェックへ	32
Slide31 金融機関への RPA の適用範囲	34
Slide32 金融機関の RPA 拡大のハードル	34
4.RPA 導入のポイント (ツール選定／導入／保守)	36
Slide34 RPA 導入のポイント	36
Slide35 RPA 導入における成功のポイント	38
Slide36 RPA の導入目的	38
Slide37 RPA 導入目的の明確化	40
Slide38 RPA 適用対象業務の見極め	40
Slide39 適用スコープの明確化	42
Slide40 目的に見合った RPA ツールの選定	42
Slide41 RPA ツール導入にかかわるテクニカル課題	44
Slide42 RPA ツールの保守	44
Slide43 事務作業内容の変更対応	46
Slide44 システム環境変化への対応	46
Slide45 RPA 推進体制の整備	48
Slide46 RPA 導入におけるガバナンスの整備	48
Slide47 RPA の管理ルール 開発 / 運用	50
Slide48 RPA 導入のステップ	50
Slide49 RPA の実施検証 (PoC)	52
Slide50 PoC のポイント	52
Slide51 PoC で気を付ける点	54
Slide52 RPA 成功のための整備	54
5.RPA ツールの今後・未来	56
Slide54 デジタルレイバーの普及・発展	56

Slide55	RPA ツール導入による技術発展への応用	58
Slide56	ルールエンジンの高度化(ルール認識)	58
Slide57	ルールエンジンの高度化(意味判断)	60
Slide58	ルールエンジンの高度化(例外処理を含めた実施が可能に)	60
Slide59	RPA ツールベンダの技術発展の方向性	62
Slide60	RPA ツールと技術発展の未来	62
Slide61	RPA で連携可能なデバイスの拡張や UI の二極化が進む	64
Slide62	RPA の導入が遅れると人工知能を取り損ねる	64
Slide63	人工知能を見越したオペレーションの再構成	66
◆	質疑応答	68

冒頭にご紹介いただいたとおり、本日は、RPAの動向と展望ということでお話をさせていただきたいと思います。

最初に自己紹介をさせていただきますと、私は、NTT データという会社でもととはシステムをつくっていたわけなんですけれども、ここ数年、新しい技術、フィンテックというとちょっと広過ぎるんですが、AIとか RPA とか、あるいはビッグデータ、こういったものを各金融機関様に、導入に当たっての上流のコンサルティングであったり、そういう技術動向を広めるような立場でお話をいろいろなところでさせていただいているということでございます。

今日は、その中で RPA がテーマでございますので、RPA を中心としながら、こちらの領域は特に人工知能とも割となじみの深い領域でもございますので、そういったところも含めて、将来の展望までお話をさせていただければと思います。

Slide2 Agenda

本日お話しするのはこちらのスライドのとおりなんですけれども、RPA とは何かということ、こちらは皆さん、もしかすると既にご存じのところもあろうかと思いますが、簡単にご紹介をしまして、そのあと、RPA ツールの話、それから、導入事例とか、あるいは導入に当たってのポイント、最後に RPA ツールが今後どうなっていくのかということをお話ししたいと思います。

『技術の変化が業務を大きく変えようとしている
～RPAの動向と展望～』

2017年6月
株式会社NTTデータ 金融事業推進部 技術戦略推進部
部長 山本 英生

© 2017 NTT DATA Corporation

Slide 2

Agenda

1. RPAとは何か
2. RPAツールの仕組み
3. RPAツールの導入事例
4. RPA導入のポイント(ツール選定/導入/保守)
5. RPAツールの今後・未来

1.RPA とは何か

まず最初に、RPAとは何かというところがございます。

RPAとは何かというところで、まず簡単にご説明をいたします。

Slide 4 RPA とはソフトウェア型のロボット

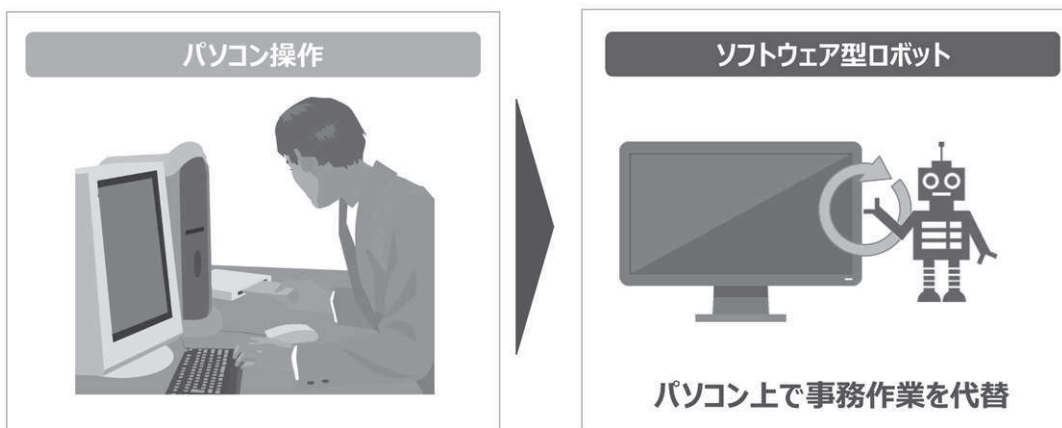
Robotic Process Automation というところにつきましては既にご認識のとおりかとは思いますが、ロボットを使った事務プロセスの自動化であると考えていただければ結構かと思えます。ただ、ロボットというと、皆さん、割とペッパーみたいなものとかを思い浮かべがちではあるんですけども、ここで申し上げているロボットは、別に実体がある必要は特にないかと思っております。

ここは、どちらかというソフトウェアとご理解いただければと思ひまして、ここでは、理解を簡単にするためにパソコン上で動くソフトウェア型ロボットと書きましたが、別にパソコンというよりは、コンピュータ上で動くご理解いただくのが正確かと思っております。実際の絵に描いているとおりで、パソコン操作をソフトウェアが代替してくれるというようなイメージになるかと思ひます。

1.RPAとは何か

RPAとはソフトウェア型のロボット

- RPAとはRobotic Process Automationとはロボットにおけるプロセスの自動化である。
- ロボットといっても物理的なロボットではなく、パソコン上で動くソフトウェア型のロボットを指しており、デジタルレイバー(仮想的労働者)と呼ばれる。



Slide 5 RPA の概念

RPA の概念というところなんですけれども、今までは人手で行っていた事務作業というものをソフトウェア型ロボットを使用して自動化することで、特にホワイトカラーが行っていた事務作業を自動化することを指す概念であるとお考えください。

ここは若干キャッチーに 9 倍の生産性と書きましたが、これはツールによって実はいろいろ違いますし、物によっては 9 倍の生産性は出ない場合もあるんですけれども、例えば試算すると、というレベルなんですけど、作業速度というのは、1 回覚えさせるとそのままずっと自動的に流れてまいりますので、我々が実際計測してみると、大体人が普通にやるよりは 3 倍ぐらい早いのかなという感覚を持っております。

1 日普通の人が 8 時間働くという前提で考えますと、24 時間働き続けることも理屈上は可能でございますので、そういったことを加味して、あえて言うならば 9 倍ぐらいというふうな生産性で示しております。ただ、実際のツールは物によって速い、遅いもございますし、事務によってはスピードが出るもの、出ないものがございますので、これはあくまでも目安とお考えいただければと思います。このぐらいの生産性が出るということであれば、1 度試してみると、どのぐらい効果があるのかは、ある、なしはすぐに判断がつくというところでございますので、比較的わかりやすい効果を出しやすいツールというものであるというふうにはご理解いただければと思います。

Slide 6 ホワイトカラーへの浸透

先ほども申し上げましたけれども、いわゆるホワイトカラーの業務に対して、労働者の置きかえというところになりますので、今まで製造業で起こって来っていたファクトリー・オートメーションと言われていたもの、ファクトリーの部分が、まさにホワイトカラーで普通の事務オフィスでやっていくという概念になろうかと思っております。欧米では当然こういった部分というのはビジネス的にも非常に盛り上がってきておまして、自動化というのは今後企業内にどんどん浸透していくのは必然なのかなと思っております。